

令和3年度事業計画書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

事業計画のポイント

「やってみたらええやん！」

2021年度のFAJは、「ファシリテーターズ・ターミナル」を目指して、実践を発信しよう。

- ・かつてない変化が起きている社会で、新たに求められているファシリテーションを探究しよう。
- ・一人ひとりの小さなチャレンジを積み重ね、ワクワク改革の主演になろう。

「いまできること、いっぱいあるで！」

FAJ は、2003 年に自律分散ネットワーク型の社会の到来を予測して設立し、ファシリテーションの普及と探究を進めてきました。継続的な全国での調査研究活動や、各種イベントでの実績を持つ、まさにファシリテーションのナショナルセンターと言える特定非営利活動法人(NPO)です。

昨年からの、新型コロナウイルスの感染拡大は世界中に衝撃を与えました。そして、新しい働き方やコミュニケーション手段からビジネスモデルをはじめ社会全体のあり方まで、かつてない変化をもたらしています。また、この感染症は世界中のあらゆるコミュニティに多大な影響を及ぼしています。

これまで「当たり前」だった環境は、コロナ禍の影響によって今後も形を変えていくことでしょう。だとすれば、すべての人が例外なく意識変革を迫られるこの時代に、私たち FAJ は何ができるのでしょうか。

これはまさに、FAJ 創設の頃のような、私たちがファシリテーションの新しいカタチを創造する「転換期」と言えるのではないのでしょうか。これまでの枠組みを手放し、この環境の中で再構築していきましょう。

そのためには、ファシリテーターが集い、それぞれの現場に向けて動き出すファシリテーターズ・ターミナルを目指す、ワクワクな改革が必要です。そこでは、ファシリテーター一人ひとりが主演(当事者)です。ファシリテーションで何が実現できるのかを語り、FAJ 活動の結果を残し、そこで得られた知見をそれぞれの現場や社会に役立てる活動へと広がりをつくるのが重要です。いま、会員同士がつながる手段は増えています。コミュニティを再考し、新たなつながりを生み出すことで可能性はさらに広がります。私たちの小さなチャレンジを積み重ねましょう。

ファシリテーションという軸でつながりあっている私たちだからこそ、この環境の中でも関係を作っていくことができます。いま、コミュニティの中で新たに出会い、会うまでのワクワクを盛り上げていきましょう。

自由に動けるようになったら会いに行こう。すごいで！

■ かつてない変化が起きている社会で、新たに求められているファシリテーションを探究しよう。

全国イベント「ファシリテーション・サミット」などの取り組みを行い、ファシリテーションのこれからのカタチを FAJ 内外のファシリテーターとともに創造していきます。社会課題の解決に取り組む会員同士が学び合うことに加え、多様な協働パートナーとのコラボレーションにより、社会へのインパクトの相乗効果を高めます。その結果を対外的に発信することで、ファシリテーションの可能性を社会に対して伝えていきます。

■ 一人ひとりの小さなチャレンジを積み重ね、ワクワク改革の主演になろう。

一人ひとりの想いを起点にした活動が組織の中で動き始めるために、テーマ型サロンやプロジェクトなど既存の仕組みから、さらなるチャレンジが生まれやすい仕組みへと変えていきます。

以下、重点的に取り組む内容を事業別に記します(括弧内は担当を表します)。

1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

調査・研究事業では、FAJ内外の連携を深め、引き続き、課題解決に取り組む会員同士が学び合うことを目的に、実践力の相互研鑽の場をつくっていきます。

1) 実践力を高める相互研鑽の場づくりの推進(理事会、各支部運営委員会、プロジェクト)

- 今後も続くであろうコロナ禍においても対面の開催を模索する動きを継続し、新しい生活様式に対応した定例会・例会を実施します。
- また、オンライン定例会・例会の実施によって、支部・地域・団体等を越える新しいコラボレーションのきっかけを生み出し、ファシリテーションについて探究する場を拡げていきます。

2) ファシリテーションの本質を探究(理事会、イベント実行委員会)

- フォーラム、シンポジウム、ファーストミーティングに継ぐ新たな全国イベントとして、相互研鑽や本質の探究を深める場「ファシリテーション・サミット」を実施します。

2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

教育・普及事業では、コロナ禍でも公開セミナーをできるだけ広く展開していきます。

1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)

- ファシリテーションの普及のため、状況を踏まえながら、ファシリテーション基礎講座(通常版・コロナ感染症対策版)を全国各地で開催します。
- コロナ感染症対策版については、運営ガイドラインを随時アップデートするなど、安心して受講できる取り組みを行い運営します。
- 今後も質の高いセミナーを継続的に開催できるよう、講師の増員、レベルアップを推進するとともに、セミナーコンテンツを継続的に改良します。

2) 公開セミナーの新たな展開の検討(公開セミナー委員会)

- ファシリテーション基礎講座(オンライン版)をリリースし、数回実施します。また集客状況や受講者からの評価も踏まえ、2022年度以降の開催について検討を行います。
- 当面コロナ禍が続くと予想されることから、ファシリテーション基礎講座(オンライン版)の開催を優先し、ファシリテーション実践講座(仮)については、運営体制を整備する等、コロナ収束後いつでもリリースができるように準備を進めます。

3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

社会課題の解決や新しい社会の創造に関わる様々な個人・団体の要請に対して、ファシリテーションを活用した支援を行います。

1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実(ファシリテーションサポート委員会)

- 行政・各種団体・NPO・学校・企業等の多様な分野から寄せられる様々な相談や依頼に対し、抱えている課題やニーズを丁寧にヒアリングし、会員の協力のもと適切なコーディネートを通じてファシリテーションを活用した支援を行います。
- 社会的な課題解決という観点から、多様なニーズに対して積極的に関わっていけるような支援のあり方を模索していきます。そのためにFAJ全体のリソース(人、ノウハウ、コンテンツ)の活用を図ります。
- FAJ内への情報発信を引き続き行い、会員の理解を深めていきます。FAJ外への発信についても検討を行っていきます。

2) 災害復興、防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援(災害復興委員会)

- 災害復興、防災・減災の分野において、ファシリテーションを活用した支援や人材の発掘・育成、学び合いをFAJ内外で行うとともに、支援の現場で実際に活動できる、実践力のある人材を育成します。
- 災害復興、防災・減災に関わる外部団体との情報交換、学び合いを行い、支援団体同士のネットワークづくりに着手します。
- FAJ内外に向けて、報告書や報告会、SNSなどで委員会の活動の効果・意義を広く伝えます。

4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

交流・親睦事業では、各種イベントや関連団体との交流を通して、FAJ内外のつながりをさらに深めます。

- 1) 地域イベントを開催(各支部運営委員会、地域イベント実行委員会)
 - 各支部におけるイベントの開催により、地域に根差した交流を深めます。さらに地域を跨いだイベントも開催することで、より開かれた交流を図り、ファシリテーションの普及と探究を一層促進します。
- 2) 国境や文化・言語を越えてつながる交流・親睦活動の強化(グローバルファシリテーション推進委員会)
 - FAJ会員を2021年10月のIAFストックホルム大会に派遣し、FAJのグローバル活動の幅を拡げ、強化します。併せてFAJ内外に知見を提供します。
 - グローバル社会に向けたファシリテーション活動の可能性をさらに拡げ、様々な実践に移していきます。
- 3) 他団体との連携強化(理事会、各支部運営委員会)
 - IAFをはじめとするファシリテーションの普及・研鑽に関わる団体と、協働パートナーとしての活動を進めます。
 - 各分野で活動している外部団体とファシリテーションを軸にコラボレーションを進めます。また、FAJ外部のファシリテーターとの連携を深めます。
 - 2025年に開催される「大阪・関西万博」の共創パートナーとして、多様な団体とのコラボレーションを進めます。

5 広報・コミュニケーション活動

2023年のFAJ創立20周年に向けて、新しいファシリテーションの可能性を意識して、FAJだからこそできる活動について情報発信します。

- 1) 広報優先順位の策定と発信の強化(理事会、広報委員会)
 - WEBコンテンツなどさらなる情報発信の拡大に向けたメディアの活用方法を検討します。
 - FAJ活動の魅力を、様々なメディアを使い内外に紹介し、会員である意義やFAJの価値を伝えます。
- 2) FAJ活動を内外に発信する広報活動の実施(広報委員会)
 - ファシリテーションを現場で実践し、社会課題に取り組む会員の活動をニューズレターで発信します。また、ニューズレターのデザインを刷新し、より効果的な発信ができる紙面を作成します。
 - 入会希望者やファシリテーションに関心のある人たちがファシリテーションの学びと実践を進めるために活用しやすいホームページの在り方や構成を検討し、発信します。
- 3) 会員間コミュニケーションの促進(広報委員会)
 - 情報発信にとどまらず、会員間で活発なコミュニケーションが促進されるホームページ・ニューズレター・SNS等のメディア活用について検討します。

6 ミッション及び組織運営に関わる活動

コロナ禍においてFAJが向き合う変化を踏まえつつ、ファシリテーターズ・ターミナルに向けた活動の歩みを止めることなく進めます。また、時代の転換期にふさわしいビジョンの策定を行います。さらに、法人として持続可能な組織づくりに取り組みます。

- 1) 組織のあり方の検討(理事会、各拠点、事務局)
 - 時代の大きな変化とファシリテーションの可能性の広がりをとらえ、新たなビジョンの策定を行います。
 - FAJ内外での協働と共創を促進するための仕組みの運用を開始し、効果について検証します。
- 2) 運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)
 - 安定的な組織運営のために、「やりたいこと」「やらなければならないこと」の違いを認識し、お互いに支え合いながら活動できるように、引き続き運営のやり方を検討・進化させていきます。
 - 委託可能な範囲の外注化を進めるとともに、その後の影響を見極めて対応します。
 - コロナ禍による環境の変化に伴う事業収益への影響に対し、新たな資金調達の方法を検討します。
 - 各拠点が活動しやすい環境にするため、拠点間及び理事会とのコミュニケーションを促進する組織コミュニケーションの場を継続します。
- 3) 拠点運営のサポートの充実(システム管理委員会)
 - G-suite運用整理と一部運用の外注化を検討し、組織体制の見直しを図ります。
 - 各拠点の活動の活性化を図るためのデジタル領域の運用支援を継続します。

4) 各種制度改正への対応(理事会、事務局)

- FAJとしての活動を維持・向上させるために、NPO法人に関連する各種の制度改正への対応を行います。

FAJビジョン 3.0

タテ型社会の常識からヨコ型社会の知恵へ (社会の視点・ファシリテーションの視点)

- ① 社会を構成する多くの人が、**対話と議論の手法や知恵**を自ら学び活用し、協働している。
- ② ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合いともに歩む**ヨコ型社会**を目指して変革をはじめている。

強い意志を持ったイノベーターのネットワークへ (ファシリテーターの視点・FAJの視点)

- ③ 社会や組織の課題を解決したいと願う挑戦的な**イノベーター**が、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
- ④ 自覚と責任あるファシリテーターの**ネットワーク型組織**が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。

ビジョンを実現するためのFAJの行動

- ① 社会を構成する多くの人が、対話と議論の手法や知恵を自ら学び活用し、協働している。
 - FAJは、個々の思いを機敏に具現化して、着実にイノベーションへとつなげる集合知を創生する。
 - FAJは、課題解決や変革を必要としている組織・コミュニティにファシリテーションのスキルとマインドを届ける。
- ② ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合い、ともに歩むヨコ型社会を目指して変革をはじめている。
 - FAJは、社会に深く根を張る上意下達型・ヒエラルキー型の思考様式と行動様式を打ち破り、多様な人々が自律的につながるネットワーク型組織の成功事例を、身をもって実現する。
 - ファシリテーションが生んだ成功事例を集め、その有用性や応用可能性、社会に与えるインパクトをアピールする。
- ③ 組織や社会の課題を解決したいと願う挑戦的なイノベーターが、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
 - FAJに集まる野心的なファシリテーターが、国際的紛争や新しい分野など、それぞれの現場に向き合って耕し、その課題解決に挑戦し、成果を上げている。
 - FAJに集まるファシリテーターが、ヨコ型社会における新しいリーダーシップに挑戦している。
- ④ 自覚と責任あるファシリテーターのネットワーク型組織が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。
 - FAJは、地域や特定分野での実践的な活動を支援する拠点やプロジェクトを臨機応変に立ち上げ、自覚と責任を持って変革を進める人々を輩出し、それらの場をつなぐネットワークのハブとなる。
 - FAJは、ファシリテーションに関する知識と経験を深めるため、研究と試行を重ね、地域や分野、世代を超えて実践者が刺激し合う相互研鑽の場となる。

ミッション

ファシリテーションの普及を通じて、ビジネス分野においては、生産性・モチベーション・リーダーシップ力を向上させ、社会的な分野では、市民活動・地域経営・国際交流の質を高め、教育の分野では、多面的な視点を持つ人材を育成していくことをめざしています。

ビギナーからプロフェッショナルまで、ビジネス・まちづくり・NPO・教育・環境・医療・福祉など、多彩な分野で活躍するファシリテーターが集まり、多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展をめざして、幅広い活動を展開していきます。